

登録有形文化財
【建造物】

や え やまみんぞくえんきゅうまき し け じゅうたくおも や
八重山民俗園旧牧志家住宅主屋

登録年月日/2007(平成19)年12月5日 所在地/名蔵967-1(石垣やいま村)



石垣やいま村(旧八重山民俗園)内に建つ旧牧志家住宅主屋は、1980(昭和55)年に字大川から移築された建物で、1923(大正12)年に建てられた病院兼住宅のうち、住宅部分である。新築当時は、八重山における住宅建築の常識を超える広大で豪華な意匠の建物として、世間の目を奪ったといわれる。建築主の牧志宗得氏は医師で、那覇で6年間、本土で6年間の勉学後に医師免許を取得し、1913(大正2)年の帰島後、医師として開業した。ち

なみに病院部分も石垣やいま村内に移築されている。

部屋の間取りは、床の間付一番座(10畳)、飾棚付二番座(7.5畳)、三番座(10畳)に板間5畳の裏座を並べている。その畳部分を囲んで縁側を廻した外側に、深い庇(雨端)が1周する間取りである。建築材は、柱や造作にイヌマキやリュウキュウコクタンを用い、梁桁の軸組もモッコク、フクギなど島産の高級木材が用いられている。

三番座の裏座の先に玄関が設けられているが、この玄関は病院棟の玄関を解体して取り付けたものである。精巧な彫刻が施された豪華な装飾は、指物師・塗物師であった宗得氏の父、宗保氏によるものである。

登録有形文化財
【建造物】

や え やまみんぞくえんきゅうもり た け じゅうたくおも や
八重山民俗園旧森田家住宅主屋

登録年月日/2007(平成19)年12月5日 所在地/名蔵967-1(石垣やいま村)



石垣やいま村(旧八重山民俗園)内に建つ旧森田家住宅は、1909(明治42)年に字大川に建てられたもので、典型的な士族の伝統的建築様式をもつ建造物である。1984(昭和59)年に現在の場所に移築された。

棟木には「天官賜福紫微鑾駕 明治四二年己酉七月吉屋新築」と墨書されている。「天官賜福紫微鑾駕」は沖縄に古くから伝わる習俗で、家の除災招福を願い棟木に書くまじない文字である。間取りは東から一番座(8畳)、二番座(8畳)、三番座(4畳)と座

敷が並び、その頃から主屋と棟続きになる3坪の台所と1.5坪の物置と続く。表座敷に対し、一番裏座から三番裏座まで7畳裏床付、5畳、6畳と続き、部屋の外側を取り巻くように縁側と庇(雨端:アマハジ)を出し、一番座の前面に雨端より突き出た玄関を構えている。柱や造作材にはイヌマキやリュウキュウコクタンを用い、梁や桁などの軸組もモッコク、フクギ、センダンなどの島産の高級木材で組まれている。